

KDラスターコンバート

(ベクター/ラスター変換)

DXF_xRS DXF_xRSC



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

特長

- ・DXF (R12J, R13J, R14J, ACAD2000, ACAD2002) からラスターデータへ変換します。
※AutoCAD 2004 以降で作成された DXF ファイルは変換できません。
- ・コマンドラインから入出力ファイル名をキーインする事で実行されます。(標準入出力が利用可能)
- ・実行時各入出力フォーマットの属性パラメータやオプションパラメータを設定できます。
- ・スケール、回転、原点移動、センタリングなどの処理が可能。
- ・AutoCAD が持っているフォント名称 (Windows Font) を指定して、文字パターン生成が可能。
(MS 明朝、MS ゴシックなど)
- ・指定ファイル又はフォルダ毎の一括変換が可能

動作環境

機種種	OS
SUN/SPARC	Solaris2.5.1以降
HP9000	HP-UX11i V2以降
IBM/RS6000	AIX4.1.5以降
Windows版	2000 / XP / Server 2003 / Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2
LINUX	x86系32ビット版

製品一覧

製品名	製品仕様	標準価格(税抜き)
DXF2RS	A0対応版(A0/600DPI) (JIS第1水準漢字対応)	35万円
DXF3RS	長尺対応版(6A0/3000DPI) ※1 (JIS第1水準漢字対応)	45万円
DXF2RSC	A0対応版(A0/600DPI) モノクロ・カラー併用版 (JIS第1水準漢字対応)	50万円
DXF3RSC	長尺対応版(6A0/3000DPI) ※1 モノクロ・カラー併用版 (JIS第1水準漢字対応)	60万円

※1:10mまで出力可能です。

オプションソフト

製品名	製品概要	標準価格 (税抜き)
KDCONV_DIR (階層構造一括変換)	階層構造の各フォルダ内に散らばっている必要なファイルを拡張子で指定し、下層フォルダまで一括変換します。	15万円
KDauto_trans (標準版) (自動監視・自動変換)	監視フォルダへ入力データを格納する事で自動的にデータ変換を行います。変換結果は印刷、ファイル転送、指定した別のフォルダへのファイル出力ができます。	20万円
JIS 第2水準ベクターフォント	JIS 第2水準フォントファイルです。 文字を線分化する際に使用します。	30万円

操作方法

DXF2RS, DXF3RS, DXF2RSC, DXF3RSC は、コマンドラインアプリケーションです。

通常のコマンドと同じようにコマンドラインから実行したり、バッチファイルやシェルスクリプトに組み込む事ができます。Windows の場合は、「コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開いて、その中で実行します。変換時にオプションを指定したり、属性データ変換パラメータファイルの内容を変更する事で種々な変換処理が可能となります。

DXF からラスタデータに変換するには、次のような形式でコマンドラインに入力します。

```
実行モジュール 入力ファイル -0 出力ファイル -各オプション
```

[操作例]

DXF_xRS を使用して DXF ファイル「sample.dxf」を TIFF ファイル「sample.tif」に変換する場合は以下のように入力して変換します。

```
C:\> DXFxRS sample.dxf -0sample.tif -Zrasl_out.atr  
ただいま、ファイル変換中です。
```

```
DXFxRS 変換終了
```

DXF_xRS : 実行モジュール名 (例: DXF2RS)
sample.dxf : 入力ファイル名
sample.tif : 出力ファイル名
rasl_out.atr : 出力属性ファイル名

-0 : 変換結果を出力するファイル名を指定するオプション。
マイナス記号とアルファベットの「オー」です。
-0 と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。
入力ファイル名と出力ファイル名に同じものを指定する事はできません。

※ オプション指定は大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。

※ オプションの詳細についてはオプションの項目を参照下さい。

※ DXF_xRSC も同様です。

変換時の設定オプション

- A : オートスケールの設定(用紙サイズ一杯に出力されます。)
- AJ : 指定した用紙サイズより大きい場合のみ、自動的に用紙サイズに合わせて縮小スケーリングします。
- AL : 無条件で A 系列用紙出力となり、入力データを用紙のほぼ中央に配置されます。(長尺サイズは除く)
- M : 前のラスター出力に重ねて(次のページ)に出力されます。(マルチページ出力可能なフォーマットのみ有効)
- C : 入力データの文字データを無視。(線分、円等のみ)
- P[paper] : 用紙サイズを番号で指定します。(0:A0 横 1:A1 横 20:A0 縦 21:A1 縦など)
- LS : 用紙サイズが A0 版を超える場合に指定します。実際の指示は-P オプションによって行います。(DXF2RS, DXF2RSC のみ)
- LD : 出力解像度が 600DPI を超える場合に指定します。実際の指示は出力属性パラメータ (OUT_RESOLUTION) で行います。(DXF2RS, DXF2RSC のみ)
- TR : 線分の重なり部分の出力を透過モードに指定 (DXF2RSC, DXF3RSC のみ)
- CMAP : フルカラーをインデックスカラーに変換します。(DXF2RSC, DXF3RSC のみ)
(-TR パラメータ設定時に有効)
- MONO : カラー出力でなく、モノクロ(2 値)に変換します。(DXF2RSC, DXF3RSC のみ)
- R[rotation] : 出力時 90, 180, 270 度回転します。(反時計方向)
- S[scale] : 全体のスケール値を指定します。
- X[xoff] : X 方向のオフセット値設定。[単位:0.01 mm]
- Y[yoff] : Y 方向のオフセット値設定。[単位:0.01 mm]
- LAY[lay_file] : 指定されたレイヤー名のみを出力したい時に利用します。
出力対象レイヤー指示ファイルに出力するレイヤー名を指示します。
<使用方法>
DXF_xRS in_file -LAY 出力対象レイヤーファイル名

-BATCH[batch_file] : バッチファイル名

指定されたファイル又はディレクトリ内のファイルを一括処理したい時に利用します。

<使用方法>

```
DXFxRS -BATCH バッチファイル名
```

<バッチファイルの指定方法>

バッチファイルの指定方法は下記の通り

```
入力ファイル -O 出力ファイル [オプションパラメータ]
```

<操作例>

(1) 1つのファイルを違うパラメータで違うファイル名に変換します。

```
TEST.DATA -O TEST_1.dt  
TEST.DATA -O TEST_2.dt -R90
```

(2) 拡張子.dataのファイルを拡張子.dtのファイルに変換します。
(ファイル名は自動的に検索されます)

```
*.data -O *.dt
```

(3) ディレクトリ(DIR_A)の中の拡張子.dataのファイルを違う
ディレクトリ(DIR_B)の中の拡張子.dtのファイルに変換します。
(ファイル名は自動的に検索されます)

```
DIR_A/*.data -O DIR_B/*.dt -R90 UNIX系
```

あるいは

```
DIR_A\*.data -O DIR_B\*.dt -R90 Windows系
```

(4) 複数ファイルを1つのマルチページ(test.dt)ファイルに変換します。
(マルチページ出力可能なフォーマットのみ有効)

```
*.data -O test.dt -M
```

<制限事項>

- ① バッチファイル内で指定できるファイル名(ディレクトリを含む)は最大255文字までです。
- ② ファイルでワイルドカードを使用する場合は、必ず拡張子を指定して下さい。
- ③ 出力コマンドは指定されたコマンドの後に出力ファイル名を付加して実行します。
内容についてはシステムによって異なりますので弊社では責任を問いません。
- ④ ワイルドカードで指定した場合の処理されるファイルの順番はアルファベット順で処理されます。
- ⑤ 漢字のファイル名はWindows版のみ有効になります。
- ⑥ スペースを含むファイル名の指定はできません。

<バッチファイル作成上の注意>

- ① バッチファイル内の項目は半角英数字で作成して下さい。
- ② バッチファイルはテキストファイルで作成して下さい。

<作成例>

Microsoft Wordで作成する場合は『テキスト改行』でファイルを保存して下さい。
その他のテキストエディタ(メモ帳等)を使用して作成して下さい。

- ③ ファイル名の文字数についての制限はシステムに依存します。

属性データ変換パラメータファイル

属性データ変換パラメータファイルには、初期状態では

DXF 入力データ用 dxf_in.atr
ラスタ出力データ用 rasl_out.atr
ラスタ出力データ用 rascl_out.atr (DXF2RSC, DXF3RSC の場合)
があり、この内容を変更する事で種々な変換が可能となります。

■入力属性データ変換パラメータ

IN_VERSION : 入力データフォーマットを変更
IN_SYMWD, INSYMHT : 入力データの文字高さ、文字幅を倍尺で指定
CHGCOLOR : 入力 DXF の色番号を変更
DXF_TEXT_OUT : AutoCAD が持っている文字フォント名称を利用して文字パターン生成時の設定
MOJI_WIDTH_MODE : DXF データの中の文字フォント名称によって文字幅を固定か可変の設定
CLIP_EXTMIN_MAX : DXF データを指定範囲でのクリップ設定
WINDOWS_FONT_HT : WINDOWS フォントの高さを入力データの文字高に対して調整 ※
WINDOWS_FONT_WD : WINDOWS フォントの幅を入力データの文字幅に対して調整 ※
WINDOWS_FONT_SP : 文字と文字の間隔を任意に指定 ※

※DXF_TEXT_OUT=V、WINDOWS_FONT_OUT=Y パラメータ入力時のみ有効

- ・ DXF 入力データ用データ変換属性パラメータファイルのサンプル (DXF_in.atr)

```
#####dxf_in.atr#####  
# DXF version(ANY, R12J, R13J, R14J, 2000)  
IN_VERSION=ANY  
#IN_VERSION=R12J  
#IN_VERSION=R13J  
#IN_VERSION=R14J  
#IN_VERSION=2000  
# symbol_height_scale  
IN_SYMHT = 1.0  
# symbol_width_scale  
IN_SYMWD = 1.0  
# change color mode (Y(default), N)  
#CHGCOLOR_MODE = Y  
# change color no.  
CHGCOLOR = (C1=1, C2=2, C3=3, C4=4, C5=5, C6=6, C7=7, C8=8)  
CHGCOLOR = (C9=9, C10=10, C11=11, C12=12, C13=13, C14=14, C15=15, C16=16)  
# kanji code(SJIS, EUC)  
KANJI_CODE = SJIS  
#KANJI_CODE = EUC  
# text out(O:code out , V:vecter font)  
#DXF_TEXT_OUT = V  
#DXF_TEXT_OUT = 0  
# gaiji font directory(only use DXF_TEXT_OUT=V)  
#GAIJI_FILE_DIR = .  
# parts convert (Y=yes(Printer/Plotter/Raster), N=no(default) (CAD))  
DATA_EXPAND = Y  
# moji_width input mode (F:fix, V:variable(default))  
MOJI_WIDTH_MODE = V  
# CLIP MODE (Y:ON N:OFF(default))  
#CLIP_EXTMIN_MAX=Y  
# CLIP AREA(if CLIP_EXTMIN_MAX=Y)  
#EXTMIN_X = 300.0  
#EXTMIN_Y = 400.0  
#EXTMAX_X = 697.0  
#EXTMAX_Y = 610.0  
#WINDOWS_FONT_OUT=Y  
#true Type Font(Height_scale, Width_scale, moji_space)  
#WINDOWS_FONT_HT=1.0  
#WINDOWS_FONT_WD=1.3  
#WINDOWS_FONT_SP=0.5  
#####end dxf_in.atr#####
```

■出力属性データ変換パラメータ

OUT_VERSION : 出力データフォーマットを変更
 COLORWIDTH : 出力データの線幅を変更
 OUT_RESOLUTION : 出力データの分解能を変更
 OUTPUT_SIZE_X(Y) : 出力データの出力範囲を変更
 CUT_SPAC_AREA : 自動スケール(-A, -AJ)で発生した片軸の余白カットの設定
 COLORRGB : カラー出力(OUT_VERSION=FX_RASTERのみ可能)の設定(※3の場合)
 出力データのRGBの色を変更(※2の場合)
 SYMBOL_LINWIDTH : DXFデータの中の文字描画の線幅の変更
 A_PAPER_OUT : 出力データをA系列の用紙サイズに設定
 BYTE_BOUNDARY : 出力されるドット数の縦/横ドット数の設定(8, 16, 32ビット単位)
 OUTPUT_DOT_X(Y) : 出力サイズをドット指定
 COLOR_YUSEN : 重なった図形の出力順番を指定 ※2
 PAPER_SCALE : 長尺用紙のスケールと回転の自動処理のON・OFF設定 ※1
 XX_OUT_SIZE_X(Y) : 自動処理のスケールの設定 ※1 ※4
 XX_OUT_ROTATE : 自動処理の回転の設定 ※1 ※4

※1 DXF3RS, DXF3RSCのみ設定。
 ※2 DXF2RSC, DXF3RSCのみ設定。
 ※3 DXF3RSのみ設定。
 ※4 XXは用紙サイズ。(例1:A0_OUT_SIZE_X, 例2:A1_OUT_ROTATE)

- ・出カラスターデータ用データ変換属性パラメータファイルのサンプル (rasl_out.atr)

```

#####rasl_out.atr#####
# format type (TIFF, SUN_RASTER, XWD, MMR, MR, MH, CALSG4, BMP etc.)
#OUT_VERSION=TIFF_NON
#OUT_VERSION=TIFF_PACK
#OUT_VERSION=TIFF_G31D
#OUT_VERSION=TIFF_G3_MH
#OUT_VERSION=TIFF_G3_MR
OUT_VERSION=TIFF_G4
#OUT_VERSION=SUN_RASTER
#OUT_VERSION=SUN_MMR
#OUT_VERSION=XWD
#OUT_VERSION=MMR
#OUT_VERSION=MR
#OUT_VERSION=MH
#OUT_VERSION=CALSG4
#OUT_VERSION=IOCA_IBMMMR
#OUT_VERSION=IOCA_NON
#OUT_VERSION=IOCA_G4MMR
#OUT_VERSION=BMP
#OUT_VERSION=MIEL
#OUT_VERSION=FX_RASTER
#OUT_VERSION=HPRTL_ROW
#OUT_VERSION=HPRTL_NON
#OUT_VERSION=HPRTL_PACK
#OUT_VERSION=HPRTL_MH
#OUT_VERSION=HPRTL_MR
#OUT_VERSION=HPRTL_MMR
#symbol height_scale (0.01 --> 99.99)
OUT_SYMHT=1.0
# symbol width_scale (0.01 --> 99.99)
OUT_SYMWD=1.0
# symbol space (unit:mm) (0.0 --> 99.99)
OUT_SYMSP=0.0
#line type pattern set(pattern_length * scale_factor) (unit:mm)
#DOT_LINE = 1.0, 1.0
#DASH_LINE = 2.0, 1.0
#CENTER_LINE = 10.0, 1.0, 1.0
#DIVIDE_LINE = 10.0, 1.0, 1.0
# color/width cross conversion table (max 256 tables)
COLORWIDTH=(C0=0.1, C1=0.1, C2=0.2, C3=0.3, C4=0.4, C5=0.5, C6=0.3, C7=0.7, C8=0.8)
#COLORWIDTH=(C9=0.1, C10=0.1, C11=0.1, C12=0.2, C13=0.3, C14=0.4, C15=0.5, C16=0.6)
#COLORWIDTH=(C128=0.01, C254=0.01, C255=0.01)
  
```

```

# all vector(without symbol) linewidth fat(default:0.0)
#ALL_LINEWD_FAT = 0.0
# Lower 200DPI linewidth fat(use FAX) (default:0.0)
#200DPI_LINEWD_FAT = 0.0
#symbol line_width(unit:mm) (0.0 --> 20.0mm)
SYMBOL_LINEWIDTH = 0.01
# output size (unit:mm) (0.01 --> 1189.0*6)
#OUTPUT_SIZE_X = 1000.0
#OUTPUT_SIZE_Y = 596.0
# output resolution (unit:DPI) (36 --> 600)
OUT_RESOLUTION = 400
# raster working memory (unit:Mbytes)
BUNDLE_MEMORY = 32.0
#BUNDLE_MEMORY = 10.0
# output device scale (0.9 --> 1.1) (default:1.0)
DEVICE_SCALE = 1.0
# auto offset & auto paper_size margin(unit:mm(default:0.0)) : used -g option
AUTO_OFFSET_X = 5.0
AUTO_OFFSET_Y = 5.0
# filling mode on(1)/off(0)
FILL_MODE = 1
# paper margin (unit:mm) (default:0.0) (0.0 --> 999.99)
PAPER_MARGIN_X = 5.0
PAPER_MARGIN_Y = 5.0
# dashline cap (0:cut , 1:circle(default) , 2:square)
#DASHLINE_CAP = 0
# TIFF byte order (default:MPU depend , motorola:M , intel:I)
#TIFF_BYTEORDER=I
#TIFF_BYTEORDER=M
# if -a(-aj) on , space_area (0:no cut(default) , 1:cut)
#CUT_SPACE_AREA = 1
# output paper_size overflow limits(unit:mm) (0-->100(default:5)) (-aj option on)
PAPER_X_LIMITS = 10.0
PAPER_Y_LIMITS = 10.0
# dashline pattern down/up ratio(10%-->900%) (default:100%)
#DASH_DOWN_RATIO = 100
#DASH_UP_RATIO = 100
# TIFF page tag output (Y/N)
#TIFF_PAGETAG = N
# output area size expand(only -g) (0.0-->100.0mm) (default:0.0)
#OUTAREA_UP_X = 0.5
#OUTAREA_ntrol(0:1_dot , 1:depend on line_width(default))
#SAME_PT_DOT = 0
# A_series paper out(-g option) (Y:yes,N:no(input_size) (Default))
#A_PAPER_OUT = Y
# width byte boundary(0:off(default),byte_bound(1,2,4))
BYTE_BOUNDARY_X = 1
# height byte boundary(0:off(default),byte_bound(1,2,4))
#BYTE_BOUNDARY_Y = 1
# output dot size(unit:dots)
#OUTPUT_DOT_X = 1728
#OUTPUT_DOT_Y = 2286
# DXFinput clip mode(1:std. clip , 2:DXFclip)
CLIP_MINMAX=2
#####end rasl_out.atr#####

```

・ 出カラスターデータ用データ変換属性パラメータファイルのサンプル (rascl_out.atr)

```
#####rascl_out.atr#####
# output version (TIFF, NO_COMPRESS, SUN_RASTER, XWD, BMP)
#OUT_VERSION=TIFF_NON
OUT_VERSION=TIFF_PACK
#OUT_VERSION=SUN_RASTER
#OUT_VERSION=NO_COMPRESS
#OUT_VERSION=XWD
#OUT_VERSION=BMP
#OUT_VERSION=HPRTL_ROW
#OUT_VERSION=HPRTL_NON
#OUT_VERSION=HPRTL_PACK
#symbol height_scale (0.01 --> 99.99)
OUT_SYMHT=1.0
# symbol width_scale (0.01 --> 99.99)
OUT_SYMWD=1.0
# symbol space (unit:mm) (0.0 --> 99.99)
OUT_SYMSP=0.0
#line type pattern set(pattern_length * scale_factor) (unit:mm)
DOT_LINE = 1.0, 1.0
DASH_LINE = 2.0, 1.0
CENTER_LINE = 10.0, 1.0, 1.0
DIVIDE_LINE = 10.0, 1.0, 1.0
# color/width cross conversion table(max 256 tables)
COLORWIDTH=(C1=0.1, C2=0.2, C3=0.3, C4=0.4, C5=0.5, C6=0.6, C7=0.7, C8=0.8)
# output size (unit:mm) (0.01 --> 999.99)
#OUTPUT_SIZE_X = 100.0
#OUTPUT_SIZE_Y = 100.0
# output resolution (unit:DPI) (36 --> 600)
OUT_RESOLUTION = 100
# paper margin (unit:mm) (0.0 --> 999.99)
PAPER_MARGIN_X = 5.0
PAPER_MARGIN_Y = 5.0
# index color table (0 --> 254)
COLORRGB=(C1=0, 0, 0, C2=1000, 0, 0, C3=0, 1000, 0, C4=1000, 1000, 0, C5=0, 0, 1000)
COLORRGB=(C6=1000, 0, 1000, C7=0, 1000, 1000)
COLORRGB=(C8=0, 0, 0, C9=1000, 0, 0, C10=0, 1000, 0, C11=1000, 1000, 0, C12=0, 0, 1000)
COLORRGB=(C13=1000, 0, 1000, C14=0, 1000, 1000, C15=1000, 1000, 1000)
COLORRGB=(C16=0, 0, 0, C17=1000, 0, 0, C18=0, 1000, 0, C19=1000, 1000, 0, C20=0, 0, 1000)
COLORRGB=(C21=1000, 0, 1000, C22=0, 1000, 1000, C23=1000, 1000, 1000)
# color order (0:point, 1:line, 2:face) (only set NO_COMPRESS)
COLOR_ORDER = 2
# color format (0:index, 1:RGB) (only set NO_COMPRESS)
COLOR_FORMAT = 1
# gamma table file
#GAMMA_FILE=gamma.tbl
#symbol line_width (unit:mm) (0.0mm --> 20.0mm)
#SYMBOL_LINEWIDTH = 0.1
# raster working memory (unit:Mbytes)
BUNDLE_MEMORY = 32.0
# output device scale (0.9 --> 1.1)
DEVICE_SCALE = 1.0
# auto offset & auto paper_size margin (unit:mm)
AUTO_OFFSET_X = 5.0
AUTO_OFFSET_Y = 5.0
# filling mode on(1)/off(0)
FILL_MODE = 1
# dashline cap (0:cut, 1:circle(default), 2:square)
#DASHLINE_CAP = 0
# if -a(-aj) on, space_area (0:no cut(default), 1:cut)
#CUT_SPACE_AREA = 1
# output paper_size overflow limits(unit:mm) (0-->100(default:5)) (-aj option on)
PAPER_X_LIMITS = 10.0
PAPER_Y_LIMITS = 10.0
# dashline down/up ratio (unit:%, default:100%) (10 --> 900)
#DASH_DOWN_RATIO = 50
#DASH_UP_RATIO = 200
# TIFF page tag output (Y/N(default))
```

```
#TIFF_PAGETAG = N
# output area size expand(only -g) (0.0-->100.0mm) (default:0.0)
#OUTAREA_UP_X = 0.5
#OUTAREA_ntrol(0:1_dot , 1:depend on line_width(default))
#SAME_PT_DOT = 0
# A_series paper out(-g option) (Y:yes,N:no(input_size) (Default))
#A_PAPER_OUT = Y
# width byte boundary(0:off(default), byte_bound(1, 2, 4))
BYTE_BOUNDARY_X = 1
# height byte boundary(0:off(default), byte_bound(1, 2, 4))
#BYTE_BOUNDARY_Y = 1
# output dot size(unit:dots)
#OUTPUT_DOT_X = 1728
#OUTPUT_DOT_Y = 2286
# DXFinput clip mode(1:std. clip , 2:DXFclip)
CLIP_MINMAX=2
#####end rascl_out.atr#####
```

操作例

操作例 1 : sample.dxf と同じ大きさになるように sample.tif へ変換し、
原点移動を行い入力データの最小値を第一象限の (0, 0) へ移動します。

```
C:\>DXF3RS sample.dxf -Osample.tif -G  
  
AutoCAD (DXF) -> RASTER ファイル コンバータ  
  
ただいま、ファイル変換中です。  
  
入力データの範囲 (単位:mm)  
Xmin=xxx Ymin=xxx Xmax=xxx Ymax=xxx  
  
出力データの範囲 (単位:mm)  
Xmin=xxx Ymin=xxx Xmax=xxx Ymax=xxx  
  
ベクター/ラスター変換処理   xx%終了  
  
DXF3RS 変換終了
```

操作例 2 : DXF ファイル(sample.dxf) をスケール 2 倍で短軸が A0 の縦方向、長軸が A0 横方向の 2 倍の
サイズ内に自動スケールを行い、変換後ファイル名を sample.tif で変換します

```
C:\>DXF3RS sample.dxf -Osample.tif -S2.0 -A -P101  
  
AutoCAD (DXF) -> RASTER ファイル コンバータ  
  
ただいま、ファイル変換中です。  
  
ベクター/ラスター変換処理   xx%終了  
  
DXF3RS 変換終了
```

制限事項

- ・ R12J, R13J, R14J, AC2000, AC2000i や AC2002 等の AC2000 と同等のフォーマットをサポートします。AutoCAD2004 以降で作成されたファイル (2000 形式のフォーマットも含む) は未対応です。
- ・ 複合図形のデータ展開オン/オフを属性パラメータにより設定できます。
- ・ 2 次元データのみサポートします。3 次元には未対応です。
- ・ 文字のフォント名称、反転は未対応です。ただし、XY 両方向の同時反転のみ対応します。
- ・ 特殊文字は、未対応です。
度 (°)、±、%、直径 (φ)、アスキー記号、オーバーライン、アンダーラインは対応可能です。
- ・ シェイプファイル (拡張子 SHX のフォントファイル) の変換に対応しています。
シェイプファイルは、変換環境に存在している必要があります。
下記のシェイプファイルをサポートします。
Unifont1.0, bigfont1.0, shapes1.1
指定されたシェイプファイルがない場合には、bigfont.shx, txt.shx を使用します。
- ・ モデル空間のみの対応となります。ペーパー空間 (レイアウト) には未対応です。
- ・ ポリラインのメッシュ処理は未対応です。ただし、幅付きデータは開始点の線幅を利用します。
- ・ 線種パターン長は有効ですが、パターンは出力フォーマットにより、異なる場合があります。
- ・ ユーザ定義の寸法線は未対応です。また、拡張データを含んだ寸法線も未対応です。
- ・ R13J 以上のコマンドの中で下記コマンドは未対応です。
3DFACE, BODY, OLEFRAME, REGION, 3DSOLID, OLE2FRAME, VIEWPORT
- ・ R14J 以上のコマンドの中で下記コマンドは未対応です。
IMAGE, ACAD_PROXY_ENTITY
- ・ OLE 等を使って貼り付けたデータ (MS-WORD, MS-EXCEL 等) は未対応です。
- ・ シェイプファイルの文字幅/高さの編集はできません。
- ・ HATCH データの島形状処理では、SOLID パターンは最外郭で処理します。
それ以外のパターンは 2 重の島形状まで対応します。
- ・ 外部参照データについて、イメージファイルのみ可能で、ブロック図形の外部参照は未対応です。
- ・ RAY, XLINE について、図面範囲の最大/最小で切断し、線分で出力します。
- ・ AC2000 以降の図形の線幅についてはサポートしていません。
- ・ 押し出し方向の指定には、対応していません。
- ・ 円弧の始終角が同一の場合データを削除します。
- ・ UNICODE (Ver3.2.0) を SJIS に変換する事が可能です。
また、シェイプファイルを参照し、AutoCAD 画面と同等のフォントで変換可能です。
- ・ AutoCAD 独自の線種には対応していません。
(BATTING, FENCELINE1, FENCELINE2, GAS LINE, HOT_WATER_SUPPLY, TRACKS, ZIGZAG)
- ・ MTEXT 以外の文字での制御コード (上線、下線) については対応していません。
- ・ シェイプを使用した文字列のベクター変換において、文字列傾斜には対応していません。
指定されている場合、0 度として変換します。
- ・ マルチテキスト (MTEXT) の制限を以下の通りとします。
 - ・ 文字幅については未対応です。
 - ・ 文字列の中央揃え、右揃えのときの文字位置は必ずしも正確に一致するとは限りません。
 - ・ 縦方向の位置あわせは中央に固定して出力します。
 - ・ フォントの幅高の違いにより、自動改行の位置や、文字出力位置は必ずしも一致しません。
 - ・ 上下複数行表記は可能ですが、行間隔には未対応のため、上下の文字位置については、入力データと異なる場合があります。
 - ・ 縦書きの場合、一行で、かつ一定の条件で書かれたもののみ対応します。
 - ・ 上下線や複数行表記等は未対応です。
 - ・ 複数行のときに、改行のみの文字列が含まれる場合や、分子や分母に文字列が存在しない分数を含んでいる MTEXT の場合は、文字の出力位置が AutoCAD 上の表示位置とは一致しません。